

平成17年度 工学部 学位記授与式
学長告辞

本日ここに学士の称号を得て、卒業を迎えられた777名の皆さんに対し、京都工繊大学を代表して心からお祝いを申し上げます。また、この日に至るまで長い間にわたって皆さんの勉学を支えてこられたご家族および関係者の方々のご労苦に対して深い敬意を表します。

皆さんは、本学での教育課程で研鑽を積み、輝かしい成果を挙げ、本日目出度く卒業式を迎えられました。本日は、皆さんが過ごしてきた大学生活を振り返る日であると思います。自らが興味を持った専門について深く学び、友人、先輩、後輩と思い出深い時を過ごし、そして、多くの先達から指導を受けたことなど、本学での学生生活をじっくり吟味するのは、今日をおいて他にはありません。また、皆さんは、それぞれがご家族をはじめ多くの人々のご支援によって今日を迎えることが出来たことと思います。今日は、そのご恩を改めて振り返り、感謝する日でもあります。

皆さんは、本学で得た知識と経験を糧に、明日から新しい世界へ船出されることとなります。そして、企業での業務、あるいは物作り、また大学での研究等、様々な仕事に従事され、社会的自己実現を果たすこととなります。小学校から大学までの教育は、この社会的自己実現に向けての準備であったわけです。この意味で、大学の卒業は、皆さんの人生の中でも大きな節目となる出来事であります。そのような皆さんに、「人間にとって生きるとは何か、仕事とは何か」ということについて、少しお話ししたいと思います。

現在、若い人について、「ニート」といわれる現象が社会的に問題とされています。それらの人々は、「何のために生きるのか」、「なぜあくせく働かなければならないのか」と疑問を持ち、また、「生きる意味が見出せない」として何も出来ずに日々を過ごしていると言われています。若者のこのような状況は、最近になって新たに生じた今日的な問題として話題になりますが、歴史を振り返ってみますと、同様の現象が起こったことがあります。その一例は、第二次世界大戦後のヨーロッパで起こったもので、若者たちは「生きる意味」を見出せずに無気力になり、仕事も勉学もしないといった現象がみられました。

そのような若者達の無気力現象を救い、心理的な治療に効果を挙げたのは、実存分析といわれる精神療法でした、この療法を確立したのは、オーストリアの精神科医であったヴィクトール・E・フランクルです。フランクルは精神科医でしたが、第二次世界大戦中の1942年から1945年にかけて、自らの家族とともにユダヤ人強制収容所に収容され、両親をはじめとするすべての家族を失いながら、ホロコーストを生き延びた一人でありました。強制収容所で彼が体験したのは、「希望がない状況に直面した時でさえも人生に意味を見出すことは可能だ」ということでした。人々は、絶望的な状況の中で、少しの食べ物を分かち合い、互いに励ましあいながら、しかし、亡くなっていったのです。フランクルはこのことを決して忘れてはならないと強調しています。このような人間の深い高次の精神的働きを彼は「実存」と呼びました。フランクルは、この実存という考えを展開

し、後にロゴセラピー（logotherapy）として知られるようになった、実存分析の精神療法を生み出しました。

フランクルの言葉によれば、「自分の人生に意味があるということを知っていれば、最悪の状態にあったとしても、その人にとって生き延びていく上でこれ以上に有効な助けとなるものはこの世界にはない」のです。ロゴセラピーによりますと、人生の「意味」というものは3つの方法で発見できるとされています。

- 1つは、仕事を作り出すこと、または行動をなすことを通して、
- 2つは、何かを経験すること、または誰かに邂逅することを通して、
- 3つは、避け得ない苦しみに対して取る私たちの態度を通して、です。

フランクルの考えの中心にあるものは、「人間が動機づけられる力とは、意味を探し求めるところである」という信念です。自分の人生における意味を個人的に見出してゆくことが、生きるということになるのです。フランクルは「人間は、人生に意味を見出すことで、想像し得る最悪の状況にさえ耐え、突き進んで行くことが出来、予想も出来ない大きさになり得るものである」と書き記しています。

このような考え方によりますと、個人個人は、自分の人生の意味を探し求めることによって、物事に取り組む意欲、心理的な力を得るということになります。そして、仕事をし、様々な経験をし、いろいろな人とめぐり合うという行動を通して、人生の意味を捜し求めて、我々は生きているのです。何もせずに考えているだけでは、生きる意味もわかりませんし、物事や人々に係わりようとする意欲さえも沸かなくなってしまうのです。

皆さんは、明日から、新たな世界で活躍されることになりましたが、仕事の場面では、喜びよりもむしろ様々な困難や失望などを経験されることが多いと思います。また、自ら選んだ仕事であっても、なぜ仕事をしなければならないのかという疑問が生じたり、他の人々との係わり合いに煩わしさを感じたりすることもあると思います。そのような時には、与えられた困難や苦しみに対して、自らがどのような態度を取るのかを知ることによって、それぞれの人生の意味が発見できるのだと考えていただきたいと思います。そして、様々な困難や失望を乗り越えていただきたいと思います。

最後に、皆さん一人一人が、今まで培ってきた能力を、社会の中で展開し、新しい希望に満ちた社会の実現のために貢献されることを願って、私のお祝いの言葉と致します。

平成18年3月24日
京都工芸繊維大学長
江島義道